

## 呼吸リハビリテーション学

[講義・演習] 第3学年 前期 必修 1単位

《担当者名》高橋尚明 nao-takahashi@hoku-iryo-u.ac.jp

## 【概要】

呼吸器系疾患の病理および疾患概念を学び、それらの疾患に罹患した対象者の障害像を理解する。呼吸リハビリテーションを急性期と周術期、生活期など対象患者の状況により分類し、必要な評価や症状に対するリハビリテーションアプローチを演習を通じて実践的に学び確認する。特に個々の評価項目が意味する事や、複数の評価項目の関連性について考察し、評価結果を総合的に統合解釈しリハビリテーションプログラムを含む必要な治療アプローチについて学ぶ。また、実際に用いるリハビリテーションアプローチについて、徒手のアプローチや運動療法を相互に実施し、相互の経験を通じて、実際の治療方法と治療を行う際に考慮すべき事を学ぶ。加えて、人工呼吸器や酸素濃縮機などの呼吸リハビリテーションに用いる機器の概要を学ぶとともに、気管内吸引に関する概要を学ぶ。

## 【学修目標】

呼吸器疾患を原因とする障害を有する対象者に対し、評価と治療を行う方法を理解するために、呼吸器疾患を要因とする障害の構造を理解し、基本的な評価方法とリハビリテーションプログラムの実施に必要な治療手技を演習を通じて理解し学ぶ。

1. 呼吸リハビリテーションの概要を理解し、説明することができる。
2. 呼吸リハビリテーションの対象となる疾患の病態を理解し説明することができる。
3. 呼吸リハビリテーションを実施するために必要な評価を適切に選択し実施することができる。
4. 呼吸リハビリテーションの各手技の理論と適応について説明し実施することができる。
5. 酸素療法および人工呼吸療法について説明することができる。
6. 気管吸引の目的と方法について説明することが出来る。

## 【学修内容】

回	テーマ	授業内容および学修課題	担当者
1	呼吸リハビリテーションの概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>・呼吸リハビリテーションの歴史</li> <li>・呼吸リハビリテーションの目的</li> <li>・呼吸リハビリテーションの効果とEBM</li> </ul>	高橋尚明
2	呼吸器疾患の病態と障害の理解	<ul style="list-style-type: none"> <li>・急性呼吸不全の病態生理</li> <li>・慢性呼吸不全の病態生理</li> <li>・神経筋疾患を原因とする呼吸不全の病態生理</li> <li>・呼吸器疾患によって生じるADL障害</li> </ul>	高橋尚明
3	呼吸リハビリテーションに必要な評価と治療アプローチ (講義)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・フィジカル-アセスメント</li> <li>・運動負荷試験</li> <li>・ADL評価</li> <li>・周術期の呼吸リハビリテーション</li> <li>・コンディショニングの実際</li> <li>・ADL-Exの実際</li> <li>・運動療法の実際</li> </ul>	高橋尚明
4	呼吸リハビリテーションに必要な評価と治療アプローチ (演習)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・フィジカル-アセスメント</li> <li>・運動負荷試験</li> <li>・ADL評価</li> </ul>	高橋尚明
5	呼吸リハビリテーションに必要な評価と治療アプローチ (演習)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・周術期のリハビリテーション-プログラム</li> <li>・コンディショニング-プログラム</li> <li>・各種の排痰法</li> </ul>	高橋尚明
6	呼吸リハビリテーションに必要な評価と治療アプローチ (演習)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・呼吸介助と咳の方法</li> <li>・運動療法の実際</li> <li>・ADL指導</li> </ul>	高橋尚明
7	気管吸引の目的と方法 人工呼吸療法と酸素療法 (講義)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・気管吸引を行う目的と方法</li> <li>・気管吸引を行うために必要な機器</li> <li>・気管吸引の注意点</li> <li>・人工呼吸療法の対象と適応モード</li> <li>・酸素療法の適応と方法</li> <li>・酸素療法の機器について</li> </ul>	高橋尚明
8	人工呼吸療法と酸素療法 (演習)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・人工呼吸療法の機器について(演習)</li> <li>・機械的咳介助について(演習)</li> <li>・酸素療法の機器について(演習)</li> </ul>	高橋尚明 講義協力者

【授業実施形態】

面接授業

授業実施形態は、各学部（研究科）、学環、学校の授業実施方針による

【評価方法】

授業予習課題28%

定期試験（記述試験）72%

授業予習課題については、初回授業時に詳細を説明する。

定期試験は返却しないが、個別での問い合わせに対しフィードバックを行う。

【教科書】

細田多穂 監修 「内部障害理学療法学テキスト（改定第4版）」 南江堂 2022年

各講義では教科書とは別に資料を配布するとともに、参考図書を含め講義内で参考にすべき文献等を紹介する。

【参考書】

千住秀明 他 監修 「呼吸理学療法標準手技」 医学書院 2008年

齋田幸久 著 「胸部X線写真ベスト・テクニク肺を立体で見る」 医学書院 2013年

高橋仁美 他 著 「動画でわかる呼吸リハビリテーション 第2版」 中山書店 2006年

石川朗 総編集 「内部障害理学療法学 呼吸（15レクチャーシリーズ）」 中山書店 2010年

柳澤健 編集 「内部障害系理学療法学（ゴールドマスター・テキスト）」 メジカルビュー社 2010年

後藤昇 他 著 「コメディカルのための画像の見方 X線・CT・MRI・PET」 株式会社エクスマレッジ 2013年

丸山仁司 他 著 「評価から治療手技の選択【内部障害編】」 文光堂 2008年

百島祐貴 著 「ゼットイわかる胸部写真の読み方 改定第3版」 医学教育出版社 2005年

石川悠加 編 「これからの人工呼吸NPPVのすべて」 医学書院 2008年

【学修の準備】

1. 指定した教科書、または事前に配布する資料については事前に目を通し、十分な予習を行うこと（約40分）。
2. 事前予習課題に取り組み、指定期日までに提出する事（約40分）
3. 教科書および講義資料、講義内で解説した内容をもとに十分な復習を行うこと（約80分）。

【ディプロマ・ポリシー（学位授与方針）との関連】

（DP3）作業療法士として必要な科学的知識や技術を備え、心身に障害を有する人、障害の発生が予測される人、さらにはそれらの人々が営む生活に対して、地域包括ケアの視点から適切に対処できる実践的能力を身につけている。

【実務経験】

高橋尚明（理学療法士、呼吸療法認定士）

【実務経験を活かした教育内容】

理学療法士および呼吸療法認定士としての実務経験を活かし、呼吸リハビリテーションに必要な知識および技術について講義と演習を行う。知識については、基礎医学や病理学を臨床症状と結び付け、評価と治療に必要な考察力を養う。また、気管吸引の目的と方法、注意点について理解する。演習については、実際の呼吸リハビリテーション手技について徒手的な介入や人工呼吸器の演習など実践的な演習を行う。

【その他】

この科目は主要授業科目に設定している